

人間の
生活と文化

対象は
教職員
大学院生
学生等

学会誌は
国際学術誌
『人間生活
文化研究』

大学院生の
研究成果
発表の場

学術交流の
促進

産官学連携
支援

若手研究者
育成支援

社会課題対応

The Association for Human Culture Studies

人間生活 文化学会 第2回大会(2026)

2026年
10月17日(土)
11:00~18:00

大妻女子大学
千代田キャンパスG棟5階

申込不要

～ つなごう！研究の輪 ～

時 間	プログラム
11:00	開会挨拶 田中 直子 (大妻女子大学人間生活文化研究所所長)
11:05	第1部 大学院生研究発表 研究成果を発表します「いろいろな先生から意見をもらおう！いろいろな発表に質問してみよう！」
14:20	第2部 シンポジウム 座 長：青江 誠一郎 (大妻女子大学大学院人間文化研究科長) 話題提供：富浦 英一 (大妻女子大学データサイエンス学部長) 事例紹介：嶺野 あゆみ (株式会社オカムラ ワークデザイン研究所) 柴山 真琴 (大学院人間文化研究科人間生活科学専攻主任) 松村 茂樹 (大学院人間文化研究科言語文化学専攻主任) 古田 雅明 (大学院人間文化研究科臨床心理学専攻主任)
16:30	第3部 優秀発表賞授与式および意見交換会



“データがつなく研究の輪”

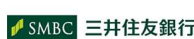
私たちの周りに存在する多種多様なデータは、分野を超えた新たな研究の輪を生み出す可能性を持っている。各領域で取り扱う「データ」を紹介し、新たな研究の輪の構築を模索する。

主催：大妻女子大学人間生活文化研究所
共催：大妻女子大学大学院人間文化研究科
大妻女子大学社会連携センター

お問い合わせ

大妻女子大学人間生活文化研究所
TEL：03-5275-6047

人間生活文化研究所 <https://www.ihcs.otsuma.ac.jp/>



人間生活文化学会第2回大会（2026）プログラム

2026年10月17日（土）11:00～18:00

大妻女子大学千代田キャンパスG棟523講義室

（開始前）事務連絡

11:00－11:02 開会挨拶 田中 直子（人間生活文化研究所所長）

11:02－13:50 第1部 大学院生研究発表（途中休憩あり）

＜挨拶＞

11:02-11:05 青江 誠一郎（大学院人間文化研究科長）

＜大学院生研究発表＞

11:05-11:17 修士課程 渡邊 夢（人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修）[M①]

11:17-11:29 修士課程 金 響希（人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修）[M②]

11:29-11:41 修士課程 蜂谷 里桜（人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修）[M③]

11:41-11:53 修士課程 山本 彩加（人間生活科学専攻 生活環境学専修）[M④]

（休憩）

13:05-13:17 博士課程 柳内 志織（人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修）[D①]

13:17-13:29 博士課程 黄 栩柔（言語文化学専攻 国際文化専修）[D②]

13:29-13:41 博士課程 渡邊 浩樹（言語文化学専攻 国際文化専修）[D③]

13:41-13:53 博士課程 利根川 千枝子（言語文化学専攻 国際文化専修）[D④]

13:53-14:05 修士課程 志水 夏々（臨床心理学専攻）[M⑤]

14:20－16:15 第2部 シンポジウム「データがつなぐ研究の輪」

＜挨拶＞

14:20-14:25 青江 誠一郎（大学院人間文化研究科長／第2部座長）

＜話題提供＞

14:25-14:50 富浦 英一（データサイエンス学部長）[SY-I]

＜事例紹介＞

14:55-15:10 嶺野 あゆみ（株式会社オカムラワークデザイン研究所リサーチセンター所長）[SY-C①]

15:10-15:25 柴山 真琴（大学院人間文化研究科人間生活科学専攻主任）[SY-C②]

15:25-15:40 松村 茂樹（大学院人間文化研究科言語文化学専攻主任（博士後期課程））[SY-C③]

15:40-15:55 古田 雅明（大学院人間文化研究科臨床心理学専攻主任）[SY-C④]

＜パネルディスカッション＞ 15:55-16:15

16:15－16:25 優秀発表賞授与式

副賞提供：株式会社オカムラ様

日本ヒューレット・パッカード合同会社様

16:40－18:00 意見交換会（5階ラウンジ）

学会ホームページはこちらから→



抄録はこちらから→





【開会挨拶】

つなごう！研究の輪 第2回大会開催に寄せて



田中 直子
大妻女子大学副学長
人間生活文化研究所所長

—— ごあいさつ ——

人間生活文化学会の第2回大会を「つなごう！研究の輪」とさせていただきました。

第1部は、大学院生の領域を超えた研究の輪、第2部は、昨年度から新しく大妻女子大学に加わったデータサイエンス学部をめぐる研究の輪です。

大妻女子大学大学院人間文化研究科は領域横断的に授業や指導を受けられるしくみを持ち、社会人も多く学んでいます。オンラインの授業や指導体制も整えられ、さまざまな環境で学ぶ学生さんにも学びやすい環境ができていると思います。しかしながら、授業以外で領域横断的に大学院生どうしが交流する機会は実はあまり多くないかもしれません。学生さんが2つのキャンパスに渡って学び、また全国津々浦々から集まる中、少しでも交流の機会を提供できればと思っています。

第2部の企画は、大学院人間文化研究科長の青江誠一郎先生とデータサイエンス学部長の富浦英一先生の雑談から始まりました。データはさまざまな領域の中に有形無形に存在していて、データを介してさまざまな領域がつながる可能性を秘めています。富浦先生にデータからみた人間・生活・文化について話題提供いただき、さらに各領域の先生方からの事例紹介を通してデータについて考える機会となればと思います。

人間生活文化研究所は、学内の先生方、大学院の学生のみなさん、研究員の方々の研究支援をさせていただくことに加えて、共同研究プロジェクトの助成金を通して、さまざまな共同研究の創生にも支援をさせていただいておりますが、これらの事業は賛助会員である企業様からのご寄付に支えられています。第2部では、賛助会員である株式会社オカムラの嶺野あゆみ様にもご登壇いただきます。本学会がさまざまな交流の場となることを願っております。

最後になりましたが、開催にご尽力くださっている大妻女子大学人間生活文化研究所の下田敦子先生および事務局の方々、大会にノベルティーやポスターをご提供くださった賛助会員の企業様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

田中 直子（たなか なおこ）

プロフィール：

お茶の水女子大学理学研究科化学専攻修了（理学博士）。帝京大学医学部生化学講座助手を経て、大妻女子大学家政学部食物学科へ。2009年4月より教授。2012年4月より1年間はUniversity College Londonで客員研究員。医学部時代は腎尿細管上皮細胞膜表面の複合糖質の構造と機能について、本学では、メタボリックシンドロームに関わる細胞（脂肪細胞、骨格筋細胞、膵臓β細胞、小腸上皮細胞など）に食品成分が与える影響について、細胞生化学的およびバイオイメーシング的手法を用いて研究を行っている。

最近の論文：Hasegawa C, Kotani M, Nakamura Y, Iida-Tanaka N: Knockdown of perilipin 4, a surface protein on lipid droplets affects energy metabolism in adipocytes via AMP-activated protein kinase. *Int. J. Hum. Cult. Stud.*, **35**: 500-505 (2025)

第 1 部 大学院生研究発表



β -グルカンおよびポリフェノール含量の異なるモチ性大麦が腸内環境に及ぼす影響

渡邊 夢¹ 青江 誠一郎²

¹大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修 修士課程

²大妻女子大学

抄録

【目的】

ポリフェノールは抗炎症作用を有するとともに、近年では腸内細菌叢を調節するプレバイオティクス様作用が報告されている (Yahfoufi, N. et al., 2018, Mbanjo, E.G.N. et al., 2020). また、大麦に豊富に含まれる水溶性食物繊維 β -グルカンは、腸内発酵を介した代謝性疾患に対する予防・改善作用が報告されている (青江, 2015). モチ性大麦品種「ダイシモチ」はプロアントシアニジンを含む有色大麦であるのに対し、「キラリモチ」はプロアントシアニジンフリーである. 近年、食物繊維とポリフェノールの相互作用が注目されているが、モチ性大麦に含まれる β -グルカンとポリフェノールの関係については十分に明らかにされていない. そこで本研究では、 β -グルカンおよびポリフェノール含量の異なる2品種が腸内環境および腸管機能に及ぼす影響を比較し、両成分の相互作用を検討するための基礎的知見を得ることを目的とした.

【方法】

5週齢の雄性 C57BL/6J マウスを1群8匹の3群に分け、10週間飼育した. 対照 (CO) 群には脂肪エネルギー比 50%の高脂肪食を、キラリモチ (K) 群およびダイシモチ (D) 群には各大麦を添加し、総食物繊維量が5%となるよう調整した高脂肪食を給餌した. 飼料中の β -グルカン含量はK群でD群より高く、総ポリフェノール量はD群でK群の約2倍であった. 飼育終了後、盲腸内容物中の短鎖脂肪酸をGC/MS、主要腸内細菌群を菌群特異的定量リアルタイムPCR (qPCR) 法により測定した. また、回腸および結腸の免疫・炎症関連遺伝子の mRNA 発現量を解析した.

【結果・考察】

CO群と比較して、K群およびD群では盲腸内容物中の *Bifidobacterium* および *Lactobacillus* 属の菌数が有意に増加した. 総短鎖脂肪酸量はK群およびD群でCO群より有意に増加し、さらにD群ではK群と比較しても有意に高値を示した. 特にプロピオン酸量は、D群でCO群およびK群と比較して有意に高値を示した. また、回腸の IL-17a mRNA 発現量はCO群と比較してK群およびD群で有意に高値を示した一方、結腸の IL-6 mRNA 発現量は両群でCO群より有意に低値を示した. これらの免疫・炎症関連指標にはK群とD群間で有意な差は認められなかった. 以上より、両大麦品種の摂取は腸内細菌叢、短鎖脂肪酸産生および腸管の免疫・炎症関連指標に影響を及ぼすことが示唆された. 特に、 β -グルカン含量が低いD群でK群より総短鎖脂肪酸量およびプロピオン酸量が高値を示したことから、 β -グルカン量のみでは説明できない品種間の成分差が腸内発酵に関与する可能性が示唆された.

キーワード: β -グルカン, ポリフェノール, 大麦

渡邊 夢 (わたなべ ゆめ)

プロフィール:

大妻女子大学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻健康栄養科学専修2年. 2025年3月大妻女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻卒業. 同年、管理栄養士国家資格取得.



全粒大麦粉摂取がグリアジン感作マウスのアレルギー関連指標に及ぼす影響

金 響希¹ 青江 誠一郎²

¹大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修 修士課程

²大妻女子大学

抄録

近年増加傾向にある食物アレルギーの中でも、小麦アレルギーは摂取頻度の高さから生活の質 (QOL) に大きな影響を及ぼす。小麦アレルギーの原因タンパク質の一つであるグリアジンは、IgE を介したアレルギー反応に関与する。一方、大麦に豊富に含まれる水溶性食物繊維 β -グルカン は、腸内細菌による発酵を介して短鎖脂肪酸の産生を促進し、腸管免疫を調節することが報告されている。しかし、大麦摂取が小麦アレルギーに関連する免疫応答に及ぼす影響については十分に明らかにされていない。そこで本研究では、全粒大麦粉の摂取がグリアジン感作マウスのアレルギー関連指標および腸管免疫に及ぼす影響を検討した。

5 週齢の雄性 C57BL/6J マウスを 1 群 8 匹の 3 群に分けた。対照 (C) 群は AIN-93G 組成を基本とし、小麦 (W) 群には小麦粉を 20%、大麦 (B) 群には全粒大麦粉 (ビューファイバー) を 20% 添加した飼料を給餌した。W 群および B 群には、グリアジン溶液 (100mg/mL) と水酸化アルミニウムゲルを等量混合し、200 μ L/匹を飼育 2, 4, 7 週目に腹腔内投与した。C 群にはアジュバントのみを投与した。また、飼育 6 および 7 週目にグリアジン溶液 (100mg/mL) を 200 μ L/匹経口投与し、投与前および投与後 30 分後の直腸温を測定した。飼育 7 週目に、血清中グリアジン特異的 IgE 濃度を ELISA 法により測定した。また、盲腸内容物中の短鎖脂肪酸をクロトン酸を内部標準として GC/MS により測定するとともに、回腸および結腸の免疫・炎症関連遺伝子の mRNA 発現量をリアルタイム PCR 法により解析した。

グリアジン経口投与前後の直腸温変化に群間で有意差は認められなかった。盲腸重量は C 群と比較して B 群で有意に高値を示した。盲腸内容物の総短鎖脂肪酸量は、B 群で C 群および W 群と比較して有意に高値を示した。個々の短鎖脂肪酸量においても酢酸量は B 群で C 群および W 群と比較して有意に高値を示した。また、プロピオン・酪酸量は W 群と比較して B 群で有意に高値を示した。血清中グリアジン特異的 IgE 濃度は、W 群では C 群及び B 群と比較して有意に高値を示し、C 群と B 群間では有意差が認められなかった。回腸の IL-4 mRNA 発現量は C 群と比較して W 群で有意に高値を示したが、B 群では有意な上昇は認められなかった。一方、回腸の IL-10 mRNA 発現量は B 群で C 群および W 群と比較して有意に高値を示した。グリアジン経口投与による明確な直腸温低下は認められなかったものの、W 群では C 群と比較してグリアジン特異的 IgE 濃度が有意に高値を示したことから、グリアジンに対する感作が成立したと考えられた。一方、B 群では W 群と比較してグリアジン特異的 IgE 濃度が低値を示し、抗炎症性サイトカイン IL-10 の発現量が高値を示した。これらの結果から、全粒大麦粉摂取はグリアジン感作そのものを完全に抑制するものではないものの、グリアジン特異的 IgE 応答および腸管における Th2 型免疫応答を抑制する可能性が示唆された。また、B 群では盲腸内の短鎖脂肪酸産生量が増加したことから、大麦に含まれる食物繊維の発酵に伴う腸内環境の変化が免疫応答の調節に関与した可能性が考えられる。

キーワード：食物アレルギー，全粒大麦粉，腸管免疫

金 響希 (きむ ひゃんひ)

プロフィール：

2025 年 3 月大妻女子大学家政学部食物学科食物学専攻を卒業。同年 4 月、大妻女子大学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻に入学。



ショウガ辛味成分ショウガオールが骨格筋細胞のミトコンドリア熱産生の制御機構に与える影響

蜂谷 里桜¹ 田中 直子²

¹大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修 修士課程

²大妻女子大学

抄録

【目的】ショウガ辛味成分の1つであるショウガオールは、加熱調理やパウダー製造などの脱水加工の過程で含量が増加し、ショウガの効能である血行促進、血管拡張の機能性を主に担う成分であると考えられている。ショウガオールのこのような効果は、交感神経系の制御を通して発揮されていると考えられているが、ショウガオールは小腸から吸収されて血中に数時間安定に存在することから、各臓器の細胞に直接影響を与えている可能性が考えられる。生体内最大の熱産生器官である骨格筋では、細胞内のミトコンドリアが生体内の熱産生に寄与しているが、骨格筋細胞にはショウガオールの受容体の1つと考えられている TRPV1 が発現していることから、ショウガオールは骨格筋細胞に直接はたらきかけて熱産生に影響を与える可能性がある。

本研究ではショウガオールが骨格筋細胞の熱産生およびエネルギー代謝に与える影響と、その制御機構を明らかにすることを目的とし、TRPV1 受容体の関与およびエネルギー代謝制御の中心的役割をになう AMPK への影響を中心に調べた。

【方法】実験にはマウス由来筋芽細胞株 C2C12 を用いた。筋管細胞へ分化誘導7日目の細胞にショウガオールを 50nM 濃度で添加した。熱産生に与える影響は、Flux Analyzer (Agilent 社)を用いミトコンドリアの酸素消費速度が、ショウガオール添加、さらに TRPV1 受容体阻害剤の添加でどのように変化するか調べることによって評価した。AMPK の活性化への影響は、Western Blotting 法でリン酸化 AMPK (p-AMPK)と AMPK の比を定量することによって評価した。

【結果および考察】ショウガオール添加 10 分後には、AMPK が活性化される様子が確認できた。ショウガオールが AMPK の活性化を介してエネルギー代謝を促進させること、その効果は分単位の早い反応であることが明らかになった。さらに、ミトコンドリアの熱産生に利用される酸素の消費速度の測定から、ショウガオールがミトコンドリアにおける熱産生を増加させること、その反応はこの 30 分以内の早い反応であることも示された。この熱産生の増加は、TRPV1 阻害剤の存在下で抑制されたことから、ショウガオールが TRPV1 受容体を介して骨格筋細胞の熱産生を増加させていることが示された。

キーワード：骨格筋、ミトコンドリア熱産生、ショウガオール

蜂谷 里桜 (はちや りお)

プロフィール：

大妻女子大学大学院人間生活科学専攻健康・栄養科学専修の修士課程2年

第144回日本薬学会の一般学術発表(ポスター)において学生優秀発表賞を受賞。

ショウガの辛味成分であるショウガオールが、マウス骨格筋由来 C2C12 細胞に与える影響について研究している。研究をきっかけに、苦手だった寿司のガリを克服した。



原始惑星状星雲 AFGL2688 の CO 同位体比観測で探る星周環境

山本 彩加¹ 下井倉 ともみ² 土橋 一仁³

¹大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 生活環境学専修 修士課程

²大妻女子大学

³東京学芸大学

抄録

太陽は私たちに最も身近な恒星である。太陽の約 1～8 倍の質量をもつ恒星は、中心部で水素の核融合反応を行う主系列星として寿命の大半を過ごした後、外層を膨張させた赤色巨星へ進化する。赤色巨星では、核融合反応や内部の混合によって炭素同位体比が変化し、その物質が対流によって表層へ運ばれる。やがて恒星は外層ガスを放出し、高温の中心核からの紫外線によって周囲のガスが輝く惑星状星雲となる。

AFGL2688 は、地球から約 1200 pc (約 3900 光年) に位置する惑星状星雲の前段階にある天体である (Goto et al., 2002)。中心部からの高速なガス流と星周ガスの衝突が確認されている (Cox et al., 2000) が、広がったガス全体の構造や化学組成は十分に分かっていない。そこで本研究では、国立天文台野辺山 45m 電波望遠鏡を用いて、天体周辺 4 分角四方を ^{12}CO および ^{13}CO の分子輝線を用いて観測した。両分子の電波強度比から、星周ガスの $^{12}\text{CO}/^{13}\text{CO}$ 比を求めた。この比は炭素同位体比 ($^{12}\text{C}/^{13}\text{C}$ 比) を推定する目安となる。

その結果、星周ガスの $^{12}\text{CO}/^{13}\text{CO}$ 比は 10～50 であり、太陽近傍の典型値 ($^{12}\text{C}/^{13}\text{C}$ 比 ≈ 89) より低かった。これは、星周ガス中に ^{13}C を比較的多く含む、核融合の影響を受けた物質が含まれる可能性を示す。そのような物質は、対流によって恒星表面へ運ばれ、恒星風として放出されたと考えられる。

さらに、この比は中心から約 0.3 pc (約 1 光年) までの内側では急激に増加し、外側では減少した。存在量の多い ^{12}CO は自己遮蔽によって紫外線から守られやすい一方、少ない ^{13}CO は紫外線で分解されやすい。そのため、紫外線の影響が強い領域では ^{13}CO が減少し、 $^{12}\text{CO}/^{13}\text{CO}$ 比が高くなる。約 0.3 pc 付近の変化は、中心星と外部からの紫外線の影響が切り替わる境界、あるいは異なる時期に放出された組成の異なるガスが層状に分布する境界を反映している可能性がある。

キーワード：天文学，恒星進化，惑星状星雲

山本 彩加 (やまもと あやか)

プロフィール：

太陽のような星の進化に興味があります。太陽質量程度の恒星は、進化の最後に外層を周囲の空間へ放出して惑星状星雲となります。私は国立天文台野辺山 45m 電波望遠鏡を用いた惑星状星雲の観測から、星がガスを放出して星雲を形成する過程を研究しています。この放出されたガスはさらに宇宙空間に広がり、次の星や私たちの体をつくる材料になります。星の最期を研究することは私たち自身を知ることにも繋がると考えています。



加工処理による大麦糠細胞壁多糖の可溶化に関する検討

柳内 志織

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修 博士後期課程

抄録

【目的】

大麦の精麦過程で生じる大麦糠には、食物繊維、フェノール性成分、 β -グルカンなどの細胞壁成分が含まれている。これらの存在状態や溶解性は、食品素材としての利用性や生体利用性に影響すると考えられる。本研究では、大麦糠の有効利用に向けた基礎的検討として、酵素処理およびエクストルーダー処理を行い、食物繊維画分の変化から細胞壁多糖の可溶化について検討した。

【方法】

試料には、うるち性大麦「サチホゴールド」の糠を用いた。酵素処理では、各種セルラーゼ・グルカナーゼを用い、37℃で3時間反応させた。また、物理的処理として、加水条件を変えて（対大麦粉10%・30%）エクストルーダー処理を行った。酵素処理後の試料は凍結乾燥・粉碎、エクストルーダー処理後は粉末のためそのまま試料とし、AOAC 2011.25法により、不溶性食物繊維（IDF）、水溶性高分子食物繊維（SDFP）および水溶性低分子食物繊維（SDFS）を測定し、各処理による食物繊維画分の変化を比較した。

【結果および考察】

未処理の大麦糠では、IDF、SDFP および SDFS はそれぞれ 54.31, 1.12, 0.36 g/100 g であり、総食物繊維に占める割合はそれぞれ 97.34, 2.01, 0.65%であった。エクストルーダー処理では、大麦糠に対して加水10%および30%におけるSDFPがそれぞれ2.48, 2.44 g/100 gとなり、総食物繊維に占める割合も4.81, 4.54%と、未処理の2.01%と比較して高値を示した。一方、各種酵素処理ではSDFPの明確な増加は認められなかった。以上より、本実験条件では、酵素処理と比較してエクストルーダー処理が大麦糠の食物繊維画分、特にSDFPの割合を増加させる可能性が示された。

さらに、今後の酵素処理条件を検討するために大麦糠の β -グルカン含量を測定したところ、もち性大麦「KATANA」、うるち性大麦「ファイバースノウ」および「サチホゴールド」で、それぞれ6.34, 2.89, 0.80% (w/w)であった。今後は β -グルカン含量の高いもち性大麦の糠を用い、酵素の種類や反応温度などの処理条件や、湿式粉碎などの処理についても検討する予定である。さらに、 β -グルカンをはじめとする細胞壁多糖の変化を詳細に解析し、各種加工処理による大麦糠の改質について検討していきたいと考えている。

キーワード：大麦糠，細胞壁多糖，エクストルーダー

柳内 志織（やない しおり）

プロフィール：

大妻女子大学家政学部食物学科卒業後、同大学大学院修士課程を修了。助手を経て、昭和学院短期大学に勤務。その後、相模女子大学短期大学部食物栄養学科に着任し、現在は同大学人間社会学部地域クリエーション学科に所属。2025年、大妻女子大学大学院博士後期課程に入学し、現在に至る。



莫友芝の篆書に見える学問と志

黄 栩柔

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 国際文化専修 博士後期課程

抄録

書法作品を見ると、私たちは文字の形や線の美しさに目を向けがちである。しかし文人の書には、書者が何を学び、何を重んじ、どのように古人と向き合ったのかという学問と志が表れている。本発表では、19世紀中国の文人である莫友芝(1811—1871)の篆書作品を手がかりに、「なぜ莫友芝は古代の文字を書いたのか」という問いを考える。

ここに取り上げるのは、同治六年(1867)に書かれた篆書対聯「読書能令芸進道、則古宛如金在鎔」である。上聯は、読書によって芸が「道」へ進むことを説き、下聯は、古(いにしえ)に則ることを、金の精錬にたとえている。ここから、莫友芝にとって古に学ぶことは、古い字形をそのまま模倣することではなく、考証と研究を通して古を自らの学問に取り込み、自らの志が古にあることを確認することであった。

また、『邵亭詩集』に収められた詩を考察すると、莫友芝は碑刻、拓本、写本を相互に比較し、文字の字形や意味だけでなく、書跡の真偽や成立の歴史的背景にまで遡って考証していたことが分かる。一方、書法においては、表面的な美しさや柔媚さよりも、古法に基づく骨力、雄逸、真態を重視していた。

以上を踏まえると、「なぜ莫友芝は古代の文字を書いたのか」という問いに対する答えも見えてくる。莫友芝は碑刻、拓本、写本の比較を通して、文字の歴史的根拠と古法を探究した。そして、その考証の成果を篆書作品の字形に表現することによって、「古を尊び、古に学ぶ」という自らの学問的姿勢と志を表そうとしたのである。

したがって、古文学派経学の学統に連なる学者であると同時に、書家でもあった莫友芝にとって書法の本質は考証を通して古法を究め、その成果を古代の書体を媒介として具体的な字形と筆勢に表し、自らの学問と志を可視化することにあったと考えられる。

キーワード：清代文人、古文学派、篆書

黄 栩柔(こう くじゅう)

プロフィール：

人間文化研究科言語文化学専攻博士後期課程在籍。清代の文学および書法史を研究し、現在は清代の文人である莫友芝(1811—1871)を中心に、その文字学、考証学研究と書法との関係について考察している。研究題目は「莫友芝の書法と書論」。



「文人」像の原流

渡邊 浩樹

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 国際文化専修 博士後期課程

抄録

中国でも日本でも、「文人」は文化人を呼ぶ言葉として、尊敬の意味合いを伴って用いられる。なお、多くの場合「文人」という言葉から思い浮かべられるのは、おそらく、漢詩文を詠んだり、書や画を作ったりして心楽ませるような、文雅な人間像ではないだろうか。

「文人」の用例を辿ると、古くは中国の西周時代、紀元前10世紀頃に作られたと推定されている青銅器の銘文にまで遡れる。しかし、その頃にはまだ上記のような人間像の存在は確認出来ず、白川静氏の説では、祭祀を受ける聖なる死者を指していたと考えられている。これは実際の用例と文脈からも確認が出来た。

そこで、祭祀を受ける聖なる死者である「文人」の、具体的な人間像はどのようなものであるか、後の時代の、詩文や書画をよくする「文人」と共通する部分もあるのかという疑問が持たれた。

青銅器銘および、それとほぼ同時代の内容を伝える経書（儒教で重んじられた書物）において「文人」という言葉で表される人間像を調査した結果、天地に秩序有らしめるような徳である「文徳」を備えた前人が、後世から尊ばれて「文人」と呼ばれたことが明らかとなった。この、徳を備えた人であるというのが、「文人」の本質であると考えられる。そして、この本質は後の時代にも変わることなく、天地に秩序をもたらすような徳のある人が、その人間像が表れた詩文や書画を作ったため、それらの作品が尊ばれたと見られる。

キーワード：中国，文人，文徳

渡邊 浩樹（わたなべ ひろき）

プロフィール：

言語文化学専攻 国際文化専修 博士後期課程

研究題目：詩書画印四絶と文人



呉昌碩早期における文人交流と芸術観の形成 —画人との交流から見る画法の確立—

利根川 千枝子

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 国際文化専修 博士後期課程

抄録

呉昌碩 (1844-1927) は詩・書・画・印、四絶をもって「中国最後の文人」と称せられる。呉昌碩は早期において多くの文人たちを訪ね見識を深めており、文人として大成するための礎を築いている。呉昌碩は読書人の家に生まれたが官途から芸術の道に進み、その芸術は印から書画へと移行し、職業文人の一面を持つようになる。呉昌碩は印文と側款、印譜と書画にある跋文を遺している。これらの資料を書法の一分野として芸術的に捉えることはあるが、呉昌碩の芸術観について着目したものは少ない。さらに呉昌碩は交流した文人についての小傳を記録している。本研究は、これらの呉昌碩が遺した第一次資料をもとに、関連する資料をあわせて精査し、官途の断念、芸術面への移行、職業文人という三つの側面に焦点をあて、早期の文人交流から学術及び芸術活動を追究して呉昌碩の芸術観を考察するものである。

呉昌碩は画人との交流も多く、そのなかで自己の画法を確立していくのである。その作品は世の人々を風靡させている。本発表では、画人との交流に着目して呉昌碩が育んだ芸術観の過程を追究して、その画法の確立を明らかにしようとするものである。

キーワード：呉昌碩，文人交流，画法

利根川 千枝子（とねがわ ちえこ）

プロフィール：

東京理科大学理学部第Ⅰ部応用化学科卒

元中学理科教員

元謙慎書道会理事

日本中国学会会員

中国文化学会会員

全日本漢文教育学会会員

大妻女子大学大学院修士課程修了

大妻女子大学大学院博士課程在籍中



中学生における援助要請の機能性を高めるための個別介入研究

志水 夏々¹ 福島 哲夫²

¹大妻女子大学大学院 人間文化研究科 臨床心理学専攻 修士課程

²大妻女子大学

抄録

文部科学省(2023)によると、中学校における不登校数は193,936人と増加傾向にあり、不登校の予防が重要となる。

不登校の予防とは、全ての子どもを対象とした予防的・開発的な指導である一次的援助サービス(石隈, 1999)に該当し、ソーシャルスキルや悩みの相談のための技能などが挙げられる。

悩みを相談するという現象は、援助要請行動として1980年代から研究され始めた。

Srebnik et al. (1996)は、援助要請行動を「情動的または行動的問題を解決する目的でメンタルヘルスサービスや他のフォーマルまたはインフォーマルなサポート資源に援助を求めること」と定義した。

本田・水野(2017)は、援助要請のニーズがあっても相談しないといった「過少性」、相談しすぎるといった「過剰性」、援助を求めるが結果が好ましくないといった「非機能性」の3つの問題状況への指導が重要であると指摘した。「過少性」「過剰性」は最適性が低い状態であり、「非機能性」は機能性が低い状態である。

これまでの援助要請の指導研究は援助要請の最適性に着目したものが多く、集団を対象に指導プログラムが実施されたものが多い中、援助要請の機能性に着目し、生徒一人ひとりに個別に指導することによって集団機能には影響せず個人にのみ影響を与えるプログラムを作成し、個別指導を行うところに意義がある。

本研究では個別指導プログラムを作成し、研究対象者に個別に指導を実施した。指導の前後、および1週間後と1か月後で質問紙調査を行い、援助要請の機能性が指導により向上しているかどうかを測定した。また指導後にはインタビュー調査も行い、どのような体験を経て上記の諸変数が変化したのか質的に分析した。

研究対象者は関東の公立中学校の中学2年生7名であった。プログラムの第1セッションは援助要請スキル、第2セッションはソーシャルサポート提供スキルを中心に訓練した。はじめにpre調査を実施した後、第1・第2セッション(各40分)を実施し、post調査を行った。その後、follow-up調査1を指導1週間後に行い、1ヶ月後にインタビュー調査(60分)とfollow-up調査2を実施した。

フリードマン検定の結果、援助要請スキル、ソーシャルサポート提供スキル、援助評価に有意差が認められ、多重比較では、主にpre調査と各時点の間で有意差が認められた。

キーワード：援助要請，機能性，個別介入

志水 夏々(しみず なな)

プロフィール：

横浜国立大学教育学部学校教育課程人間形成コース心理発達専門領域卒業、大妻女子大学人間関係学部人間関係学科社会・臨床心理学専攻卒業、大妻女子大学大学院人間文化研究科臨床心理学専攻修士課程在学。卒業論文では「大学生における援助要請の機能性を高めるための介入研究」を執筆。横浜市児童相談所夜間指導員、世田谷区学校生活サポーターを経て現在は東京都健康長寿医療センター研究所で臨時職員を務めている。

第2部 シンポジウム

「データがつなぐ研究の輪」



【座 長】

シンポジウムの開催に寄せて

青江 誠一郎

大妻女子大学大学院 人間文化研究科
研究科長



—— ごあいさつ ——

人間生活文化学会第2回大会の第2部シンポジウム「データがつなぐ研究の輪」の座長を務めさせていただくことになりました。このテーマを企画した背景には、本学大学院人間文化研究科の特徴があります。本研究科は、修士課程の人間生活科学、言語文化学、現代社会研究、臨床心理学の4専攻と、博士課程の人間生活科学、言語文化学の2専攻から構成され、一つの研究科の中で領域を超えた学びや研究に触れることができます。合同論文発表会も、こうした特徴を象徴する取り組みの一つです。

本シンポジウムでは、各専攻を代表する先生に、それぞれの研究でどのようなデータを扱い、どのように研究へとつなげているのかをご紹介します。さらに、新たに設置されたデータサイエンス学部の先生にも話題提供者としてご登壇いただき、専門家の視点からコメントをいただきます。

一口に「データ」といっても、その姿は研究分野によってさまざまです。私自身が扱う実験データにも、機器分析による数値データ、順位として評価するデータ、主観的な状態をVAS (Visual Analog Scale) によって数値化したデータなどがあります。一方、質的データの収集と解析を主体とする研究もあり、言語データやカウンセリングで得られる情報なども重要な研究対象となります。

一見すると異なる研究分野であっても、「データ」という視点から眺めることで、その収集法や解析法、さらには研究の組み立て方に思いがけない共通点が見いだされるかもしれません。本シンポジウムが、専攻の枠を超えて互いの研究を知る機会となり、新たな分野横断的研究の芽につながることを期待しています。また、日頃の合同論文発表会において、他専攻の研究をより深く理解する一助となれば幸いです。

青江 誠一郎（あおえ せいいちろう）

プロフィール：

千葉大学大学院園芸学研究科修士課程修了，雪印乳業(株)入社，大妻女子大学家政学部助教授，大妻女子大学家政学部教授。

研究 穀物中の食物繊維の機能性研究がテーマ。

学会：日本食物繊維学会理事長，日本栄養・食糧学会理事，日本栄養改善学会評議員

受賞：日本栄養改善学会・学会賞受賞，日本食物繊維学会・学会賞受賞，日本栄養・食糧学会・学会賞受賞

著書：食物繊維（第一出版），毒出しごはん（河出書房）



【話題提供】

データから見た人間生活文化研究

富浦 英一

大妻女子大学 データサイエンス学部
学部長



抄録

研究を進める上で、データは、自然科学にとどまらず、社会科学、人文科学においても欠かすことができません。かつて人文社会科学においては、文献資料に基づく研究が主流で、データを駆使する研究は活発ではありませんでした。しかし、パソコンの性能向上、デジタル技術の高度化・普及を追い風として、こうした分野の研究にもデータの活用が広がってきました。ここで強調すべき点は、データの活用により、統計学の活用といった分析手法の変化だけでなく、分析されるテーマ、考察される問い自体も影響を受けるということです。実験が難しい経済学の研究において、データの活用が広がり、単なる相関関係の観察では足りず、因果関係の検証が厳密なものとなり分析が精緻化しました。文学や歴史学など典型的な人文分野でも、文献のデジタル化を受けてデータの分析が広がっています。私たちの暮らしの中でもビッグデータの蓄積・利用が広がる中で、新しい学問分野としてデータサイエンスに注目が集まり、本学でも昨年度にデータサイエンス学部が新設されました。ここでは、データの活用が人間生活文化の研究にどのような影響を及ぼすのか、いくつかの事例にふれながら、そのインパクトについて考えるきっかけを提供するための話題を提供したいと思います。

富浦 英一（とみうら えいいち）

プロフィール：

東京大学経済学部卒業，マサチューセッツ工科大学（MIT）Ph.D.．通商産業省大臣官房企画調査官，神戸大学経済経営研究所教授，横浜国立大学経済学部長，同大学長補佐，一橋大学大学院経済学研究科教授などを経て，2024年4月に本学に着任．昨年4月よりデータサイエンス学部長，一橋大学名誉教授．独立行政法人 経済産業研究所 所長を兼任．日経・経済図書文化賞，エコノミスト賞など受賞．



【事例紹介】

データから「心地よさ」を生み出す

嶺野 あゆみ

株式会社オカムラ ワークデザイン研究所
リサーチセンター所長

抄録

株式会社オカムラは、「人が活きる社会の実現」をパーパスとし、オフィスをはじめ、教育・医療・研究施設、商業施設、物流センターなどの環境づくりに取り組んでいます。1945年に創業し、1980年に研究所を発足して以来、40年以上にわたり、働き方や働く環境に関する調査・研究を継続し、その知見を空間提案や製品開発に活かしてきました。

本講演では、株式会社オカムラ ワークデザイン研究所の取り組みとして、心地よいオフィス空間や製品を生み出すために実施してきた、オフィスレイアウトの経年分析や、椅子のユーザー評価などを紹介します。また、調査から得られた知見を、空間提案や製品開発に活用するだけでなく、冊子やWebサイトを通じて発信し、顧客や社会と共有する取り組みについても紹介します。企業における研究活動には、調査によって得られた知見を整理・蓄積するだけでなく、それらを実践へつなげ、より多くの人々に届ける役割も求められます。

人と環境、研究と実践をつなぐ媒介としてのデータの役割を振り返りながら、本学会において、「心地よさ」を生み出すデータの可能性について議論できればと考えています。

嶺野 あゆみ（みねの あゆみ）

プロフィール：

首都大学東京（現：東京都立大学）大学院 都市環境科学研究科 博士前期課程修了後、株式会社オカムラ入社。人間工学およびウェルビーイングの観点から、オフィスや公共施設における空間・家具の利用実態を調査。認定人間工学専門家（CPE-J）。



【事例紹介】

複数言語の育ちを包括的に捉える質的研究 — 質的データの事例紹介 —

柴山 真琴

大妻女子大学大学院 人間文化研究科
人間生活科学専攻主任

抄録

質的データとは、「言語で記述されたデータ」を指しますが、観察記録やインタビュー記録、作文や文書などが含まれます。質的データを用いる研究をするためには、「何を解明するために、どのような質的データが必要なのか」「その質的データをどのように分析すれば、解明したいこと(研究目的)に対する知見が得られるのか」を考える必要があります。より詳しく言えば、質的データを扱う研究においては、研究対象とする社会現象をどのようなものとして見るのか(存在論)、どのようにすればそれを知ることができるのか(認識論)という自分の立ち位置を選び取り、その立ち位置を踏まえて研究全体を枠づける「研究方法論」を組み上げていくことが求められます。

本講演では、以下の3つの流れで発表します。

[1]最初に、質的研究法と質的データとの関係を確認します。

[2]次に、私が共同研究の一環として取り組んできた、子どもの複数言語の育ちを包括的に捉える質的研究の「研究方法論」について、簡単に述べます。本研究では、「解釈的アプローチ」という立ち位置から、子どもの複数言語の形成過程を「日常実践に基礎を置く協働的・解釈的過程」として捉えていること、それを踏まえて「研究方法論」を組み立てたことを説明します。

[3]最後に、独日国際児を対象にした2つの事例研究を提示します。具体的には、対象児の読書行動と作文力の変化過程に着目して、二言語(日本語・ドイツ語)の作文力と三言語(日本語・ドイツ語・英語)の読書力が相互に関係しながら変化していった過程を紹介します。

【付記】本研究は JSPS 科研費(No.26301033; No.19H01758/研究代表者:柴山真琴)の助成を受けました。

柴山 真琴(しばやま まこと)

プロフィール:

大妻女子大学大学院人間文化研究科・教授。博士(教育学)(東京大学)。複数文化・複数言語で育つ子どもと家族の発達過程に関心があります。日本の保育園で育つ留学生家族の子どもの行為的・言語的变化過程を解明する研究や海外で育つ日系国際児の言語発達過程を解明する研究を行ってきました。現在は、就学後の読み書き力の土台を作る幼児期に注目し、継承日本語幼児に適した支援方法を考案する共同研究に取り組んでいます。



【事例紹介】

言語データから探るサーバントリーダーシップの原点 —新約聖書ギリシア語 $\delta\omicron\upsilon\lambda\omicron\varsigma$ と KJV “servant” の対応分析—

松村 茂樹

大妻女子大学大学院 人間文化研究科
言語文化学専攻主任（博士後期課程）

抄録

本発表では、言語データの活用事例として、拙稿「サーバントリーダーシップの原点—『サーバントリーダーは、まず“しもべ”である』」（『大妻女子大学紀要-文系-』第58号 2026.3.15 大妻女子大学）において行った、新約聖書の語彙分析について紹介する。

サーバントリーダーシップは、ロバート・K・グリーンリーフ（1904-1990）によって提唱されたリーダーシップ論であり、グリーンリーフは「サーバントリーダーは、まずサーバントである（The servant-leader is servant first）」と述べている。本研究では、この“servant”の概念的原点を明らかにするため、新約聖書における「しもべ」に着目した。

具体的には、全文が公開されている英語聖書 King James Version (KJV) において“servant”と訳され、その底本であるギリシア語聖書 Textus Receptus において $\delta\omicron\upsilon\lambda\omicron\varsigma$ (doulos) と記されている箇所を抽出した。その上で、実在人物の社会的身分、たとえ話の登場人物、給仕・家事労働等としての用例を除外し、サーバントリーダーシップとの関連が認められる用例について文脈を検討した。

その結果、これらの用例は、①イエスの教えとしての「しもべ」、②自己下降としての「しもべ」、③自己定義としての「しもべ」という三つの観点から整理することができた。特に、パウロ、ヤコブ、ユダ、ペテロといった初代教会の指導者たちが自らを「しもべ」と定義していることから、「サーバント」と「リーダー」は相反するものではなく、「しもべ」であることがリーダーシップの前提となり得ることが示された。

本発表を通して、語彙の出現や翻訳上の対応関係に文脈情報を加えることによって、比較的小規模な言語資料からも概念形成のあり方を考察できることを示し、人文系研究における言語データ活用の一例を提示したい。

松村 茂樹（まつむら しげき）

プロフィール：

筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科中途退学 博士（文学、筑波大学）。ボストン大学客員研究員、東京大学非常勤講師などを歴任。専門はアジア太平洋国際交流論、サーバントリーダーシップ論。最近の著書に『長尾雨山研究』（研文出版）などが、論文に「サーバントリーダーシップ」の本質」（『人間生活文化研究』No.33）、「ディズニー映画に見る女性表象」シリーズ（『コミュニケーション文化論集』23号～）などがある。



【事例紹介】

臨床心理学におけるインタビューデータの分析方法 —調査研究と事例研究

古田 雅明

大妻女子大学大学院 人間文化研究科
臨床心理学専攻主任

抄録

臨床心理学専攻は、臨床心理士と公認心理師の二資格取得を目指す大学院生を教育する専門職養成課程である。私たち教員は、科学的思考と共感的理解を育成するために、大学院生に対して二種類のインタビューデータの収集方法と分析方法を教授している。

第一は、修士論文研究におけるインタビュー調査である。構造化面接法や半構造化面接法に加え、M-GTA や TEA といった質的分析方法を教育している。大学院生は、先行研究のレビューからリサーチクエスチョンを明確化し、研究目的に応じて調査協力者へのインタビューを実施する。

第二は、心理療法である。悩みを抱えて来談したクライアントに対する心理支援法としてのインタビュー技法と、面接記録というインタビューデータを分析する事例研究法を教育している。心理療法はクライアント中心に進められるため、面接開始時点にはリサーチクエスチョンは存在しない。心理支援が終了した後に、事後的にリサーチクエスチョンが浮かび上がる点が特徴である。また、事例研究法ではエビデンスベースの分析だけでなく、ナラティブベースの分析を行うこともある。

心理学の多くが統計学を方法論とし自然科学的視点からデータ分析を行うのに対し、臨床心理学の中核である心理療法と事例研究法では、自然科学的分析を行う場合もあるものの、本専攻では個別性・一回性を重視したナラティブベースの人文科学的分析が主流である。

当日は、臨床心理学専攻における調査研究の例と事例研究の例を示し、二つの分析法を教育する意義と教育上の課題について発表した上で、新たな研究の輪を生み出す可能性について意見交換をしたい。

古田 雅明（ふるた まさあき）

プロフィール：

名古屋大学法学部法律学科卒業後、総合物流企業の会社員を経て、専修大学大学院文学研究科心理学専攻に入學し、臨床心理士資格を取得。2005年より大妻女子大学心理相談センターに勤務し、親面接や遊戯療法を通して子育て支援に従事。現在は大妻女子大学心理相談センター所長。保育心理臨床の研究の他に、力動的な心理アセスメントの教育方法の研究をしている。専門は臨床心理学。博士（心理学）。臨床心理士・公認心理師。

【アクセス】

- JR 総武線
「市ヶ谷駅」下車 徒歩 10 分
- 都営新宿線、
東京メトロ有楽町線・南北線
「市ヶ谷駅」A3 出口 徒歩 7 分
- 東京メトロ半蔵門線
「半蔵門駅」5 番出口 徒歩 5 分
- 東京メトロ東西線
「九段下駅」2 番出口 徒歩 12 分



G 棟
会場は5階です